

1年数学 (MYP2 Mathematics) 【数学：4単位】

科目のねらい

MYP数学の指導と学習のねらいでは生徒が以下のことができるように期待されています。

- ・ 数学を楽しみ、好奇心を育むとともに、数学のもつ優雅さや力を認識するためのきっかけをつかむ。
- ・ 数学の原理と本質に対する理解を深める。
- ・ さまざまな文脈において、明確かつ自信をもってコミュニケーションをとることができるようになる。
- ・ 論理的、批判的、創造的な思考を養う。
- ・ 数学的な思考や問題解決における自信、忍耐力、主体性を養う。
- ・ 一般化や抽象化を行う力を養う。
- ・ 実生活のさまざまな状況や他の知識の領域、将来の発展に、スキルを応用し、転移できるようになる。
- ・ テクノロジーと数学の発達が相互に及ぼしてきた影響の価値を認識する。
- ・ 数学者の研究成果や数学の応用の結果としてもたらされる道徳的、社会的、倫理的な影響を理解する。
- ・ 数学の普遍性や、多文化および歴史的な観点の価値を認識することにより、数学の国際的な側面を認識する。
- ・ 数学が他の知識の領域に及ぼす影響の価値を認識する。
- ・ その先の数学の学習のために必要となる知識、スキル、姿勢を身につける。
- ・ 自分と他者の研究成果を批判的に振り返る力を養う。

目標および評価基準

MYP 評価観点	
A：知識と理解	i. なじみのある状況においても、なじみのない状況においても、問題を解決するうえで適切な数学的手法を選択することができる。
	ii. 問題を解決する際に、選択した数学的手法を効果的に応用することができる。
	iii. さまざまな文脈の中で問題を正しく解決することができる。
B：パターンの探究	i. 数学的な問題解決の技法を選択して応用することにより、複雑なパターンを発見することができる。
	ii. 発見に合致する関係性や一般法則としてパターンを詳しく述べることができる。
	iii. 関係性や一般法則を検証して正当化することができる。
C：コミュニケーション	i. 口述と記述のどちらにおいても、説明に際して適切な数学的言語（表記、記号、専門用語）を用いることができる。
	ii. 適切な数学的表現の形式を用いて情報を整理することができる。
	iii. 異なる数学的表現の形式を用いて情報を提示することができる。
	iv. 不備がなく一貫性のある数学的推論の過程を述べることができる。
	v. 論理構造を用いて情報を整理することができる。
D：実生活への応用	i. 実生活の状況の中で関連性のある要素を特定することができる。
	ii. 実生活の状況を解決するときに適切な数学的手法を選択することができる。
	iii. 選択した数学的手法を効果的に応用して解決案に到達することができる。
	iv. 解決案の正確度を説明することができる。
	v. 実生活の状況の文脈において解決案が理に適っているかどうかを説明することができる。

※ねらい・目標の記述は、IBO発行の「Mathematics guide」に基づいています。

関連概念（数学の学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

変化	同値	一般化	近似
妥当性	モデル	パターン	数量
表現	単純化	空間	システム

年間計画

時期	ユニット	1. 重要概念 2. グローバルな文脈 3. ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題のMYP評価観点（【 】内） および課題概要と評価方法	1. 学習指導要領 観点との対応 2. 道徳内容項目 とのつながり
前期 (4月～9月)	1	1. 論理 2. 科学技術の革新 3. コミュニケーション、協働、情動	「正負の数」「文字と式」「式の計算」 A数と式(1)正の数と負の数 ア) アイ イ) アイ A数と式(2)文字を用いた式 ア) アイウエ イ) ア A数と式(1)文字を用いた式 ア) アイウエ イ) ア 教科書(学校図書) 中学校数学 1・2	「ユニットテスト」【A】 ユニットの内容を網羅したテストを行う。 授業で扱ったことがあるような問題、または授業では扱っていないが授業で学習した知識およびスキルの応用、実生活への応用に関する問題を通して評価する。 「レポート」【BCD】 規則性のある数の並びに関する問題生成および模範解答作成を通して、規則性について数学的表現を用いて説明できているかを評価する。	1. ①知識・技能-A ②思考・判断・表現-BC ③主体的に学習に取り組む態度-D 2. A-5
	2	1. 関係性 2. 科学技術の革新 3. 批判的思考、コミュニケーション	「方程式」「比例と反比例」 A数と式(3)一元一次方程式 ア) アイ イ) アイ C関数(1)比例、反比例 ア) アイウエ イ) ア 教科書(学校図書) 中学校数学 1	「ユニットテスト」【A】 ユニットの内容を網羅したテストを行う。 授業で扱ったことがあるような問題、または授業では扱っていないが授業で学習した知識およびスキルの応用、実生活への応用に関する問題を通して評価する。 「レポート」【BCD】 学習した比例と反比例の内容を応用して、実生活において様々な事象にどう結びついているかについて、数学的表現を用いて説明できているかを評価する。	1. ①知識・技能-AB ②思考・判断・表現-D ③主体的に学習に取り組む態度-C 2. A-4
後期 (10月～3月)	3	1. 関係性 2. 公平性と発展 3. 創造的思考、整理整頓、情報リテラシー	「連立方程式」「不等式」 A数と式(2)連立二元一次方程式 ア) アイウ イ) アイ 数学I(1)数と式 イ式(イ)一次不等式 教科書(学校図書) 中学校数学 1・2	「ユニットテスト」【A】 ユニットの内容を網羅したテストを行う。 授業で扱ったことがあるような問題、または授業では扱っていないが授業で学習した知識およびスキルの応用、実生活への応用に関する問題を通して評価する 「レポート」【BCD】 数量の関係における実生活と数学の結びつきについて考え、連立二元一次方程式や一次不等式を用いた問題生成を行ない、数学的に考えることができているかを評価する。	1. ①知識・技能-A ②思考・判断・表現-B ③主体的に学習に取り組む態度-CD 2. D-22
	4	1. 形式 2. 個人的表現と文化的表現 3. 創造的思考、情報リテラシー、メディアリテラシー	「平面図形」「空間図形」 B図形(1)平面図形 ア) アイ イ) アイウ B図形(2)空間図形 ア) アイ イ) アイ 教科書(学校図書) 中学校数学 1 ※「平面図形」の内容の一部は、学際的な単元(ID)において扱う	「ユニットテスト」【A】 ユニットの内容を網羅したテストを行う。 授業で扱ったことがあるような問題、または授業では扱っていないが授業で学習した知識およびスキルの応用、実生活への応用に関する問題を通して評価する。 「プレゼンテーション」【BCD】 身の回りの立体について、習った空間図形に置き換えるなど、数学的表現を正しく使って図形の体積を説明できているかを評価する	1. ①知識・技能-A ②思考・判断・表現-B ③主体的に学習に取り組む態度-CD 2. D-21

※全ユニット終了後に「D データの活用 (1) データの分布」(累積度数、四分位範囲、箱ひげ図なども含む)について学習をする

※全ユニット終了後に高校数学へのスムーズな移行のために 展開・因数分解について扱う

2年数学 (MYP 3 Mathematics) 【数学：3単位】

科目のねらい

MYP 数学の指導と学習のねらいでは生徒が以下のことができるように期待されています。

- ・ 数学を楽しみ、好奇心を育むとともに、数学のもつ優雅さや力を認識するためのきっかけをつかむ。
- ・ 数学の原理と本質に対する理解を深める。
- ・ さまざまな文脈において、明確かつ自信をもってコミュニケーションをとることができるようになる。
- ・ 論理的、批判的、創造的な思考を養う。
- ・ 数学的な思考や問題解決における自信、忍耐力、主体性を養う。
- ・ 一般化や抽象化を行う力を養う。
- ・ 実生活のさまざまな状況や他の知識の領域、将来の発展に、スキルを応用し、転移できるようになる。
- ・ テクノロジーと数学の発達が相互に及ぼしてきた影響の価値を認識する。
- ・ 数学者の研究成果や数学の応用の結果としてもたらされる道徳的、社会的、倫理的な影響を理解する。
- ・ 数学の普遍性や、多文化および歴史的な観点の価値を認識することにより、数学の国際的な側面を認識する。
- ・ 数学が他の知識の領域に及ぼす影響の価値を認識する。
- ・ その先の数学の学習のために必要となる知識、スキル、姿勢を身につける。
- ・ 自分と他者の研究成果を批判的に振り返る力を養う。

目標および評価基準

MYP 評価観点	
A：知識と理解	i. なじみのある状況においても、なじみのない状況においても、問題を解決するうえで適切な数学的手法を選択することができる。
	ii. 問題を解決する際に、選択した数学的手法を効果的に応用することができる。
	iii. さまざまな文脈の中で問題を正しく解決することができる。
B：パターンの探究	i. 数学的な問題解決の技法を選択して応用することにより、複雑なパターンを発見することができる。
	ii. 発見に合致する関係性や一般法則としてパターンを詳しく述べることができる。
	iii. 関係性や一般法則を検証して、正当化することができる。
C：コミュニケーション	i. 口述と記述のどちらにおいても、説明に際して適切な数学的言語（表記、記号、専門用語）を用いることができる。
	ii. 適切な数学的表現の形式を用いて情報を提示することができる。
	iii. 異なる数学的表現の形式の間を行き来することができる。
	iv. 不備がなく、一貫性のある数学的推論の過程を述べることができる。
	v. 論理構造を用いて情報を整理することができる。
D：実生活への応用	i. 実生活の状況の中で関連性のある要素を特定することができる。
	ii. 実生活の状況を解決するときに適切な数学的手法を選択することができる。
	iii. 選択した数学的手法を効果的に応用して解決案に到達することができる。
	iv. 解決案の正確度を説明することができる。
	v. 実生活の状況の文脈において解決案が理に適っているかどうかを説明することができる。

※ねらい・目標の記述は、IBO 発行の「Mathematics guide」に基づいています。

関連概念（数学の学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

変化	同値	一般化	近似
妥当性	モデル	パターン	数量
表現	単純化	空間	システム

※目標と評価規準は MYP 数学3のものを使用する。

年間計画

時期	ユニット	1. 重要概念 2. グローバルな文脈 3. ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題のMYP評価観点（【 】内） および課題概要と評価方法	1. 学習指導要領 観点との対応 2. 道徳内容項目 とのつながり
前期 (4月～9月)	1	1. 関係性 2. グローバル化と持続可能性 3. 協働、創造的思考、転移	「比例・反比例」「1次関数」 C(1) 比例、反比例 ア) アイウエ イ) アイ C(1) 1次関数 ア) アイウ イ) アイ 教科書(学校図書)中学校数学1・2	「ユニットテスト」【A】 ユニットの内容を網羅したテストを行う。 授業で扱ったことがあるような問題、または授業では扱っていないが授業で学習した知識およびスキルの応用、実生活への応用に関する問題を通して評価する。 「レポート」【BD】 学習した関数の内容を応用して、実生活において少し先の未来を予測したり、関数が様々な事象にどう結びついているかについて、理解できているかを評価する。	1. ①知識・技能-A ②思考・判断・表現-B ③主体的に学習に取り組む態度-CD 2. B-19
	2	1. 形式 2. 科学技術の革新 3. コミュニケーション、振り返り、批判的思考	「平行と合同」「三角形と四角形」 B(1) 基本的な平面図形の性質 ア) アイ イ) ア B(2) 図形の合同 ア) アイ イ) アイ 教科書(学校図書)中学校数学2	「ユニットテスト」【A】 ユニットの内容を網羅したテストを行う。 授業で扱ったことがあるような問題、または授業では扱っていないが授業で学習した知識およびスキルの応用、実生活への応用に関する問題を通して評価する。 「レポート」【BC】 様々な規則性を持った多角形について考察し、数学的モデル化ができているか、数学的表現を用いた説明ができているかを評価する。	1. ①知識・技能-AD ②思考・判断・表現-B ③主体的に学習に取り組む態度-C 2. C-10
	3	1. 論理 2. アイデンティティと関係性 3. 協働、創造的思考、情動	「相似な図形」 B(1) 図形の相似 ア) アイ イ) アイウ B(2) 円周角と中心角 ア) ア イ) アイ B(3) 三平方の定理 ア) ア イ) アイ 数学 A(1)図形の性質 ア(ア)(イ)(ウ) イ(ア)(イ) ※「展開・因数分解・2次方程式」 本単元で必要な内容 A(2)簡単な多項式 A(3)二次方程式 教科書(学校図書)中学校数学3 教科書(数研出版)数学A	「ユニットテスト」【A】 ユニットの内容を網羅したテストを行う。 授業で扱ったことがあるような問題、または授業では扱っていないが授業で学習した知識およびスキルの応用、実生活への応用に関する問題を通して評価する。 「プレゼン」【CD】 実生活において、相似な図形がどう活用されているかを説明したり、数学的表現を正しく使って図形の証明ができているかを評価する。	1. ①知識・技能-A ②思考・判断・表現-BD ③主体的に学習に取り組む態度-C 2. A-5
後期 (10月～3月)					

※全ユニット終了後に高校数学へのスムーズな移行のために 展開・因数分解、二次方程式、確率 について扱う

※なお、確率は中学校数学程度とし、それ以外は高校数学の内容も含まれる

3年数学 (MYP 4 Mathematics) 【数学：4単位】

科目のねらい

MYP 数学の指導と学習のねらいでは生徒が以下のことができるように期待されています。

- ・ 数学を楽しみ、好奇心を育むとともに、数学のもつ優雅さや力を認識するためのきっかけをつかむ。
- ・ 数学の原理と本質に対する理解を深める。
- ・ さまざまな文脈において、明確かつ自信をもってコミュニケーションをとることができるようになる。
- ・ 論理的、批判的、創造的な思考を養う。
- ・ 数学的な思考や問題解決における自信、忍耐力、主体性を養う。
- ・ 一般化や抽象化を行う力を養う。
- ・ 実生活のさまざまな状況や他の知識の領域、将来の発展に、スキルを応用し、転移できるようにする。
- ・ テクノロジーと数学の発達が相互に及ぼしてきた影響の価値を認識する。
- ・ 数学者の研究成果や数学の応用の結果としてもたらされる道徳的、社会的、倫理的な影響を理解する。
- ・ 数学の普遍性や、多文化および歴史的な観点の価値を認識することにより、数学の国際的な側面を認識する。
- ・ 数学が他の知識の領域に及ぼす影響の価値を認識する。
- ・ その先の数学の学習のために必要となる知識、スキル、姿勢を身につける。
- ・ 自分と他者の研究成果を批判的に振り返る力を養う。

目標および評価基準

MYP 評価観点	
A：知識 と理解	i.なじみのある状況においても、なじみのない状況においても、問題を解決するうえで適切な数学的手法を選択することができる。
	ii.問題を解決する際に、選択した数学的手法を効果的に応用することができる。
	iii.さまざまな文脈の中で問題を正しく解決することができる。
B：パタ ーンの探 究	i.数学的な問題解決の技法を選択して応用することにより、複雑なパターンを発見することができる。
	ii.発見に合致する一般法則としてパターンを詳しく述べることができる。
	iii.一般法則を証明するか、検証して正当化することができる。
C：コミ ュニケー ション	i.口述と記述のどちらにおいても、説明に際して適切な数学的言語（表記、記号、専門用語）を用いることができる。
	ii.適切な数学的表現の形式を用いて情報を提示することができる。
	iii.異なる数学的表現の形式の間を行き来することができる。
	iv.不備がなく、一貫性があり、簡潔な数学的推論の過程を述べることができる。
	v.論理構造を用いて情報を整理することができる。
D：実生 活への応 用	i.実生活の状況の中で関連性のある要素を特定することができる。
	ii.実生活の状況を解決するときに適切な数学的手法を選択することができる。
	iii.選択した数学的手法を効果的に応用して解決案に到達することができる。
	iv.解決案の正確度を正当化することができる。
	v.実生活の状況の文脈において解決案が理に適っているかどうかを正当化することができる。

※ねらい・目標の記述は、IBO 発行の「Mathematics guide」に基づいています。

関連概念（数学の学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

変化	同値	一般化	近似
妥当性	モデル	パターン	数量
表現	単純化	空間	システム

※目標と評価規準は MYP 数学5のものを使用する。

年間計画

時期	ユニット	1. 重要概念 2. グローバルな文脈 3. ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題の MYP 評価観点（【 】内） および課題概要と評価方法	1. 学習指導要領 観点との対応 2. 道徳内容項目 とのつながり
前期 (4月～9月)	1	1. 関係性 2. アイデンティティと関係性 3. 振り返り 情報リテラシー 批判的思考 情動	「数と式」 数学 I (1) 数と式 ア(7), (ウ), (I)、イ(イ), (ウ), (I) (3) 2次関数 ア、イ 「2次方程式と2次関数」 A 数と式 (2) 簡単な多項式ア、イ (3) 2次方程式ア、イ C 関数 (1)ア、イ 学校図書「中学校数学3」 「体系数学3 (数式・関数編)」	「ユニットテスト」【A】 なじみのある状況となじみのない状況に関する問題のテストを行う。授業で扱ったことがあるような問題、または授業では扱っていないが授業で学習した知識を応用すれば解決できるような問題を通して知識・理解を評価する。 「レポート」【D】 生徒は2次関数に関するレポートを作成する。数学と実生活とを関連させ、数学的モデル化ができていないか、数学的手法を用いて問題解決ができていないか等について評価する。	1. ①知識・技能：A ②思考・判断・表現：D 2. A5
	2	1. 形式 2. 科学技術の革新 3. 転移 創造的思考 コミュニケーション	「三角比」「指数関数と対数関数」 数学 I (2) 図形と計量 ア、イ 数学 II (3) 指数関数・対数関数 ア、イ 数研出版 体系数学3「数式・関数編」 数研出版 体系数学4	「プレゼンテーション」【C・D】 説明の際に適切な数学的言語(数式、記号、数学用語、グラフなど)を用いることができるか、論理的・数学的に飛躍なく、不足なく結論までの過程を説明できているかなどを評価する。また、指数・対数・三角比に関するプレゼンを実施し、数学と実生活とを関連させる。数学的モデル化ができていないか、数学的手法を用いて問題解決ができていないか等について評価する。	1. ②思考・判断・表現：C ③主体的に学習に取り組む態度：D 2. D20
後期 (10月～3月)	3	1. ものの見方 2. 個人的表現と文化的表現 3. 協働	「集合・命題、式と証明」 数学 I (1) 数と式 ア(イ)、イ(7) 数学 II (1) いろいろな式 イ(イ) 数研出版 体系数学3 (論理・確率編)	「プレゼンテーション」【B・C】 パターンの探究について、数学的技法を用いてパターンを発見できているか、一般法則などパターンについて表現できているか、パターンについて検証し、正しいことを根拠とともに述べているかなどについて評価する。また、説明の際に適切な数学的言語(数式、記号、数学用語、グラフなど)を用いることができるか、論理的・数学的に飛躍なく、不足なく結論までの過程を説明できているかなどを評価する。	1. ②思考・判断・表現：B ③主体的に学習に取り組む態度：C 2. B9
	4	1. 論理 2. 科学技術の革新 3. 転移 情報リテラシー メディアリテラシー 批判的思考	「確率・統計」 第2学年 D データの活用 (2) 不確定な事象の起こりやすさ ア、イ 第3学年 D データの活用 (1) 標本調査ア、イ 数学 I (4) データの分析 ア、イ 数学 A (2) 場合の数と確率 ア、イ 学校図書 中学校数学1・2・3 数研出版 体系数学3 (論理・確率編)	「レポートテスト」【B】 パターンの探究について、数学的技法を用いてパターンを発見できているか、一般法則などパターンについて表現できているか、パターンについて検証し、正しいことを根拠とともに述べているかなどについて評価する。 「ユニットテスト」【A】 なじみのある状況となじみのない状況に関する問題のテストを行う。授業で扱ったことがあるような問題、または授業では扱っていないが授業で学習した知識を応用すれば解決できるような問題を通して知識・理解を評価する。	1. ①知識・技能：A ③主体的に学習に取り組む態度：B 2. C12
	5	1. 関係性 2. アイデンティティと関係性 3. 情動 転移	「整数の性質」 数学 A(3) 数学と人間の活動 数研出版 体系数学3 (論理・確率編)	「ユニットテスト」【A】 なじみのある状況となじみのない状況に関する問題のテストを行う。授業で扱ったことがあるような問題、または授業では扱っていないが授業で学習した知識を応用すれば解決できるような問題を通して知識・理解を評価する。	1. ①知識・技能：A 2. A4

4年次数学 (MYP 5 Mathematics) 【理数数学 I : 5 単位】

科目のねらい

MYP 数学の指導と学習のねらいでは生徒が以下のことができるように期待されています。

- ・ 数学を楽しみ、好奇心を育むとともに、数学のもつ優雅さや力を認識するためのきっかけをつかむ。
- ・ 数学の原理と本質に対する理解を深める。
- ・ さまざまな文脈において、明確かつ自信をもってコミュニケーションをとることができるようになる。
- ・ 論理的、批判的、創造的な思考を養う。
- ・ 数学的な思考や問題解決における自信、忍耐力、主体性を養う。
- ・ 一般化や抽象化を行う力を養う。
- ・ 実生活のさまざまな状況や他の知識の領域、将来の発展に、スキルを応用し、転移できるようにする。
- ・ テクノロジーと数学の発達が相互に及ぼしてきた影響の価値を認識する。
- ・ 数学者の研究成果や数学の応用の結果としてもたらされる道徳的、社会的、倫理的な影響を理解する。
- ・ 数学の普遍性や、多文化および歴史的な観点の価値を認識することにより、数学の国際的な側面を認識する。
- ・ 数学が他の知識の領域に及ぼす影響の価値を認識する。
- ・ その先の数学の学習のために必要となる知識、スキル、姿勢を身につける。
- ・ 自分と他者の研究成果を批判的に振り返る力を養う。

目標および評価基準

MYP 評価観点	
A : 知識と理解	i. なじみのある状況においても、なじみのない状況においても、問題を解決するうえで適切な数学的手法を選択することができる。
	ii. 問題を解決する際に、選択した数学的手法を効果的に応用することができる。
	iii. さまざまな文脈の中で問題を正しく解決することができる。
B : パターンの探究	i. 数学的な問題解決の技法を選択して応用することにより、複雑なパターンを発見することができる。
	ii. 発見に合致する一般法則としてパターンを詳しく述べることができる。
	iii. 一般法則を証明するか、検証して正当化することができる。
C : コミュニケーション	i. 口述と記述のどちらにおいても、説明に際して適切な数学的言語（表記、記号、専門用語）を用いることができる。
	ii. 適切な数学的表現の形式を用いて情報を提示することができる。
	iii. 異なる数学的表現の形式の間を行き来することができる。
	iv. 不備がなく、一貫性があり、簡潔な数学的推論の過程を述べることができる。
	v. 論理構造を用いて情報を整理することができる。
D : 実生活への応用	i. 実生活の状況の中で関連性のある要素を特定することができる。
	ii. 実生活の状況を解決するときに適切な数学的手法を選択することができる。
	iii. 選択した数学的手法を効果的に応用して解決案に到達することができる。
	iv. 解決案の正確度を正当化することができる。
	v. 実生活の状況の文脈において解決案が理に合っているかどうかを正当化することができる。

※ねらい・目標の記述は、IBO 発行の「Mathematics guide」に基づいています。

関連概念（数学の学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

変化	同値	一般化	近似
妥当性	モデル	パターン	数量
表現	単純化	空間	システム

年間計画

時期	ユニット	1. 重要概念 2. グローバルな文脈 3. ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題のMYP評価観点（【 】内） および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
前期 (4月～9月)	1	1. 論理 2. 科学技術の革新 3. 創造的思考	「式と複素数」 数学Ⅱ(1)いろいろな式 ア(7)(4)(ウ)(エ)(オ) イ(7)(4)(ウ) 教材「数研出版：体系数学3（数式・関数編）」	「ユニットテスト」【A】 なじみのある状況となじみのない状況に関する問題のテストを行う。授業で扱ったことがあるような問題、または授業では扱っていないが授業で学習した知識およびスキルを応用すれば解決できるような問題を通して知識・理解を評価する。	①知識・技能-A
	2	1. 関係性 2. 科学技術の革新 3. 創造的思考	「三角関数」 数学Ⅱ(1)いろいろな式 ア(7)(4)(ウ)(エ)(オ) イ(7)(4)(ウ) 教材「数研出版：体系数学3（数式・関数編）」	「インタビューテスト」【C】 三角関数に関するテーマについてのインタビューテストを実施する。説明の際に適切な数学的言語（数式、記号、数学用語、グラフなど）を用いることができるか、論理的・数学的に飛躍なく、不足なく結論までの過程を説明できているかなどを評価する。	②思考・判断・表現-C
	3	1. 形式 2. 個人的表現と文化的表現 3. コミュニケーション	「図形と方程式」 数学Ⅱ(2)図形と方程式 ア(7)(4)(ウ)(エ)イ(7)(4) 数学Ⅲア(ウ)イ(4) 教材「数研出版：体系数学3（数式・関数編）」	「レポート」【B】【C】 生徒は図形と方程式に関するテーマについてレポート作成する。パターンの探究について、数学的技法を用いてパターンを発見できているか、一般法則などパターンについて表現できているか、パターンについて検証し、正しいことを根拠とともに述べているかなどについて評価する。説明の際に適切な数学的言語（数式、記号、数学用語、グラフなど）を用いることができるか、論理的・数学的に飛躍なく、不足なく結論までの過程を説明できているかについて評価する。	②思考・判断・表現-C ③主体的に学習に取り組む態度-B
後期 (10月～3月)	4	1. 関係性 2. アイデンティティと関係性 3. 情報リテラシー、転移	「数列」 数学B(1)数列 ア(7)(4)(ウ)(エ)イ(7)(4)(ウ) 教材「数研出版：体系数学4」	「レポート」【B】【D】 生徒は数列の性質に関するレポートを作成する。数学と実生活とを関連させ、数学的モデル化ができているか、数列を用いてパターンを予測し、数学的手法を用いて問題解決をしているかなどについて評価する。	①知識・技能-D ③主体的に学習に取り組む態度-B
	5	1. 関係性 2. 科学技術の革新 3. 創造的思考、転移	「微分と積分」 数学Ⅱ(5)微分・積分の考え ア(7)(4)(ウ)イ(7)(4)(ウ) 教材「数研出版：体系数学4」	「ユニットテスト」【A】 なじみのある状況となじみのない状況に関する問題のテストを行う。授業で扱ったことがあるような問題、または授業では扱っていないが授業で学習した知識およびスキルを応用すれば解決できるような問題を通して知識・理解を評価する。 「レポート」【D】 生徒は微分法、積分法に関するテーマについてレポート作成する。数学と実生活とを関連させ、数学的モデル化ができているか、数学的手法を用いて問題解決をしているかなどについて評価する。	①知識・技能-A ③主体的に学習に取り組む態度-D
	6	1. 論理 2. アイデンティティと関係性 3. 情報リテラシー、転移	数学B(2)統計的な推測 ア(7)(4)(ウ)(エ)イ(7)(4)	総括的評価課題については実施しない。 形成的評価課題として、統計的な推測についてのプレゼンテーションを作成する。論理的・数学的に飛躍なく、不足なく結論までの過程を説明できているか、伝わりやすいような工夫がなされているかなどを評価する。	

※理数数学Iで学習する内容のうち、前期課程で学習済みのものは記載していない。